

第 34 回建設業経理士 1 級財務分析 解答速報

〔第 1 問〕解答にあたっては、各問とも指定した字数以内（句読点を含む）で記入すること。
問 1

流動比率は、短期的に支払期限の到来する流動負債に対してその支払手段となる流動資産をどの程度保有しているのかによって、企業の短期的な支払能力を表す数値である。^{☆☆}流動比率の一般的な計算において、流動資産が 2、流動負債が 1 であるとき、流動比率は 200% となるが、[☆]このような状態は、仮に流動資産の担保価値が簿価の 50% しかなくとも短期的な債務をすべて賄い切れる流動資産を保有していることになることから、[☆]流動比率は 200% 以上が理想的とされている。[☆]これを流動比率の分析における 2 対 1 の原則という。

問 2

棚卸資産滞留月数は、未成工事支出金と材料貯蔵品の合計額を、1 か月分の完成工事高で除して計算される[☆]比率であり、棚卸資産の回転の鈍さを意味するものである。[☆]一般の製造業と比べて、棚卸資産のうち製品と原材料に相当する在庫はほとんど持たない建設業において、棚卸資産の滞留で問題となるのは仕掛品を意味する未成工事支出金となる。[☆]ただし、未成工事支出金の発生態様は企業の規模や受注内容によって大きく異なるため、分析の際には単に月数のみを見るのではなく、受注内容もよく検討するのが望ましい。^{☆☆}

予想採点基準

☆の前の文の内容が正解で
☆… 2 点 × 10 = 20 点

〔第2問〕

記号（TまたはF）

1	2	3	4	5
F	T	T	T	F

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

予想採点基準

☆…3点×5=15点

〔第3問〕

(A) ☆ 62,500 百万円（百万円未満を切り捨て）

(B) ☆ 20,300 百万円（同 上）

(C) ☆ 13,000 百万円（同 上）

(D) ☆ 105,740 百万円（同 上）

流動比率 ☆ 125.13 % （小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入）

予想採点基準

☆…4点×5=20点

〔第4問〕

問1 ☆ 76,400 千円（千円未満を切り捨て）

問2 ☆ 43,636 千円（同 上）

問3 ☆ 54,400 千円（同 上）

問4 ☆ 83,275 千円（同 上）

問5 ☆ 93,807 千円（同 上）

予想採点基準

☆…3点×5=15点

〔第5問〕

問1

A	立替工事高比率	☆	46.78	%	(小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)
B	固定長期適合比率	☆	66.65	%	(同 上)
C	棚卸資産回転率	☆	30.44	回	(同 上)
D	付加価値率	☆	27.22	%	(同 上)
E	自己資本事業利益率	☆	1.60	%	(同 上)
F	営業利益増減率	☆	74.11	%	(同 上) 記号(AまたはB) B
G	完成工事高キャッシュ・フロー率	☆	1.22	%	(同 上)
H	配当性向	☆	30.30	%	(同 上)
I	未成工事収支比率	☆	329.76	%	(同 上)
J	流動負債比率	☆	171.92	%	(同 上)

問2

記号 (ア～ム)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
シ	ク	コ	ウ	ヘ	フ	ア	エ	チ	ネ
★	★	★	★	★	★	★	★	★	★

予想採点基準

☆… 2点×10=20点

★… 1点×10=10点

合計 30点